

# Narromine で得たもの

名工大 4 年 Tatsuya

3 月の全国大会に出場するにあたって、短い期間ではありましたが、少しでも多くの経験を積むことを目標として Narromine を訪れました。

結論から言いますと、今回の遠征は非常に実りあるものでした。

まず、大会で良い成績を残す前に一人前の良いパイロットにならなければいけないと

Shinzo さんは何度もおっしゃっていましたが、1 週間かかりはしたものの自分の中で一人前とはどういうことか答えが出せたと思います。ソアリングを上達させるだとか、クロスカントリーを習うだとかの前に、根本的な部分が全然未熟であったと痛感させられました。まだまだ道半ばですが、生涯グライダーに乗り続けるために進むべき道筋、目指すべき姿が見つかった気がします。自家用操縦士なら当たり前のこと、レギュレーションを守って安全に、自分の意思は明確に、朝起きてから夜寝るまでがフライト、ですね。

そしてこの 1 週間、一歩ずつでしたが日々成長することができたと思います。

overload にならない程度のタスクを毎日課し、ほぼ毎日それらを消化することができました。その中で、Shinzo さんに教えていただいた  $\text{stress} = \text{task} / \text{resource}$  という考え方は、安全を確保しつつ新しい課題に取り組み成長するために大切にしなければならないものだと気付かされました。今回の遠征は慣れない環境、短い期間などでどうしても task が大きくなり、優先すべきものの順位が変わってしまいがちでしたが、1 週間を通じて様々な経験を積めたので、特に最終日は余裕をもって飛ぶことができるようになりました。

それから、1 日の終わりに反省会ではなく上手くいったことを自慢しあうというのは日本では経験したことがなかったので、これも良い刺激になりました。もちろん人間なのでミスが出ることは仕方ないため反省も必要なのですが、同じミスを二度起こさないためにどう対策したらよいか考える方がはるかに重要という前向きな考え方には納得させられました。これについては日本に帰ってから航空部の合宿などの活動でも積極的に取り入れて、ミーティングを建設的な意見の出る場にしていきたいと思います。その方がやっていて楽しいですし。

それからもちろん、日本とは比べ物にならない本場のサーマルの片鱗を味わい、ソアリングを楽しむこともできました。端から銀賞獲得などは狙っていませんでしたが、毎日異なる気象条件の中、高い高度を長い時間飛び続ける経験は初めてでしたので、これも大きな収穫だったと思います。

本当に貴重な経験ができましたが、やはりと言うか1週間では短い……

今回学んだことを自分の中で完結させず後輩にも伝え、願わくはもう少し成長した姿を見せにまた来れたらと思います。

